

輸入牧草用ラップの効果確認試験



10月11日撮影 開封時



10月11日撮影 開封時のサイレージ



10月11日撮影 仕上がり約1か月後

試験目的

輸入牧草ラップの効果確認

試験作物
及び品種

牧草

試験資材
及び数量(規格)

グラスワインド(中国品)(500mm×1800m) 黒 4本

慣行資材

ファームベール(国産品)(500mm×1800m) 黒

資材使用期間

9月14日～9月下旬

試験結果

(1)作業性について(慣行品との比較)

慣行品と遜色なく巻くことができました。しかし、巻き終わりのフィルムがしっかりとロールに着かず、手で張り直す作業が発生した場面があったので、慣行品に比べて試験品は若干粘着力が弱いと感じた。

使用してからまだ日数は浅いものの、牧草ロールを開封した様子では密着感はよいと感じる。

(2)作物の生育状況または、収穫への影響

カビの発生などは特に見受けられない。今後数カ月経ってカビの発生やサイレージの品質がどうなっているかを注意して見ていきたい。

(3)栽培管理上の優位点あるいは問題点について

【優位点】：国産に比べて低コストである。

【問題点】：粘着力は、国産に比べて若干劣るように感じる。

(4)資材の強度・耐久性・崩壊性について

ラッピング作業時は破れ等もなく、慣行品と遜色なく使用できた。

(5)雑草・病害虫の発生について

現時点では見受けられない。

モニター感想

以前にも安価な輸入品牧草ラップ(韓国産)を試験したことがあるが、糊が弱かったため現在は使用していない。

今回の試験品は、以前に比べると糊が強い。慣行品は国産であるものの、同等の品質であれば安価な輸入品の使用を検討したい。他生産者に比べ、ラップの巻き数はかなり厚くしているため、牧草ラップの使用量も多い。コストダウンのためには非常に魅力的な商品であると感じる。

JA担当者の感想(生産資材課 保志 氏)

資材品のコストは年々上昇傾向にあり、生産者の営農コストが上がっているのが現状である。

安価な試験品は魅力的であると感じるため、試験品は今後も注意して観察を続けていきたい。

今後の使用について

継続して使用したい。
越冬して、サイレージの品質が慣行品と同等であれば、安価な輸入品の使用を検討したい。

将来希望する資材について

カラス除けができる牧草ラップ